

小学生を対象とした美術ワークショップの改善と宣伝動画の制作

国吉康雄のアートと歴史で小学生の自己理解を深めるプロジェクトチーム

活動の目的

活動目的は、岡山県内の小学生が岡山市出身の洋画家・国吉康雄の絵画作品鑑賞を通して、自己理解と地域や社会への理解を深めることができる機会を作ることである。現代社会は、情報化やグローバル化が進み、変化の激しい世の中となっている。いずれ社会に出る子どもたちには、社会の多様な価値観や急激な変化に対応していくことのできる力が求められている。その対応力を身につける基盤づくりとして、20世紀前半を生き抜いた国吉が、自分の思いを作品を通してどのように表現したのかを考えるワークショップを企画した。地域出身アーティストの作品鑑賞をしながら、自分自身を振り返りこれからの人生や生き方について考えるきっかけを持ってもらうことをねらいとしている。キャリア教育の一環として自己理解につながる鑑賞方法を学ぶ場を提供することで、作品について深く自分なりに考えることや自分の考えを客観視することを体感してもらう。この体験を通して、自身を取り巻く状況や社会の変化を柔軟につかむ力を身につけてもらう土台を作ることが目的である。

活動の内容及び経過

2020年度は小学生を対象に岡山県内で対面ワークショップを行う予定であったが、コロナウイルス感染症を受けて学校訪問型の活動を自粛。そこで、小学生の自己理解を目指したワークショップは中高生や大人の方が自分を振り返ることにも応用できるため、活動の対象範囲を小学生～大人に変更し対応。2019年度企画の自由進行型ワークショップを岡山大学教育学研究科の院生メンバーを中心に授業形式に再構成し、活動周知する方法を模索した。11月には、「国吉祭2020 online Studies」（主催・岡山大学国吉康雄記念美術教育研究と地域創生講座）で15分ほどのワークショップ紹介番組をオンラインで配信。その後、美術教育やキャリア教育に関心のある団体や個人に活動を周知する目的で、ワークショップ解説用動画の作成準備を進めた。3月に実際のワークショップ風景を撮影。感染症対策も考慮した上で、ワークショップの撮影には大人の方（8名）にご参加いただいた。現在は、専門の方の協力のもと解説用動画の編集作業を行っている。

活動の成果・効果

3月の撮影時の参加者の感想から、ワークショップが「世代間交流に繋がること」「自分と異なるバックグラウンドを持つ多様な人々の意見を聞く場となり、視野を広げるきっかけとなること」が分かった。撮影当日は、10～80代の高校生・大学生・留学生・社会人（8名）が参加。振り返りでは、年齢や職業などの経験の違いをふまえた意見交流の面白さ、ワー



2019年度のワークショップ会場の様子 オンライン会議の様子



ワークショップ紹介番組の配信リハーサル

ワークショップ解説用動画の撮影

クショップ内での自分の考えの変化に言及する方が多かった。小学生対象の場合、ワークショップを受けて美術鑑賞や自分に対する考え方がどのように変化したのかを言語化してもらい聞くことが難しい面がある。しかしながら、対象範囲を広げたことで、ワークショップの効果を参加者の方から直接確認することができる結果となった。

また、新しく岡山大学生メンバーを2名迎えた。動画の作成意義を議論する中では、活動の目的と意義をチーム内で何度も再共有する重要性とその共有方法を学ぶことができた。特に、オンラインでの会議と情報共有を中心としたため、対面での情報共有との違いや注意点なども把握できた。

今後の課題と問題点

コロナウイルス感染症対策が必要な現状から、2021年度も対面授業型のワークショップを小学校の訪問を中心として活動することは容易ではないと予想される。そのため、自己理解や社会理解のきっかけづくりをするという目的は残しつつ、2020年度に引き続き小学生から大人までの参加を視野に入れた活動展開を行いたい。課題は、感染症対策を想定したワークショップの形式を確立すること、子どもや大人がワークショップの存在を知り参加してみたいと思えるような広報活動を行うことである。現在のワークショップの形式は対面型を想定しているため、感染症対策が必要な現状を踏まえると、実施場所や人数、時には地域をまたいだ参加の可否などを検討することが考えられる。岡山県内でより多くの方にワークショップに参加してもらい、他者との交流から意見や考え方の多様性を楽しんでいただくためには、オンライン型のワークショップの作成も視野に入れる必要がある。

- 代表者：金縄あかり ●所在地：岡山市北区南方
- E-MAIL：artandhistory2021@gmail.com
- 設立年：2019年 ●メンバー数：7名